

市民ライター
松川恵子さん

●まつかわ けいこ
美園町在住。
3人の子どもを育てる主婦。本の読み聞かせなどの講習会に積極的に参加し、若草小学校で図書ボランティアを努める。



▲図書館まつりで『お話』をする高橋さん（左）

はくく 豊かな心を育て 本を届けよう

子どもと本のかかわり

すばらしい本に
出会ってほしい

「テレビを見る2時間はあつという間に過ぎてしまいますが、読書の2時間は、時間がゆつたりと流れ、心も豊かになるように思いますが」と話すのは、さまざまな場所でも『お話』をしたり、絵本を紹介したりしている『鉄子文庫』の高橋良子さん。

『お話』は、絵がないので、子

心を豊かにし、
創造力を働かせ
深く考える力を育てる読書。
活字離れが進む現在、
市立図書館などで、
『読み聞かせ』や『お話』などの
活動をされている方を訪ね、
本の果たす役割や楽しさを
レポートしました。



高橋 良子さん

どもたちの視線にいつも緊張するのですが、子どもたちの表情が見れることや、お話を共有するつながりができることがとても楽しいそうです。

「子育ての期間は過ぎてみればあつという間です。その短い期間に、子どもたちには心が温まり、何度も読みたくなるような本に出会ってほしいですね。保護者の方

は、子どもにどのような本を選んでもあげたいのか迷われることがあると思います。そのときは、本の後ろの方の発行年や第○刷発行などの個所を参考にしてください。長い年月を経て、なお多くの人に読み継がれ、何度も増刷されているものは良い本だと思います。いわゆる『古典』といわれている本です。また、図書館の司書の方にお聞きするのもよいでしょう。本を読むことで、楽しく人間味あふれる登場人物に出会えたり、親子や友だちで同じ本を読むことで、細やかな感情を共有できたりしますので、人とのコミュニケーションをとるのも上手になるのではないのでしょうか」と話してくれました。

絵本は子育ての 一つの道具

「絵本は、学習教材ではなく子育てのための一つの道具です。絵本を通しての親子の触れ合いや会話が大事だと思います」と話すのは市立図書館で読み聞かせなどの活動を続けている『おはなしぼけつ』代表の須藤和恵さん。

『おはなしぼけつ』は、昭和57年に設立され、昨年4月には子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰を受けていま